

大倉邦彦の実践

「三箇の信条」

三箇の信条
 一、皇國精神を深める事
 二、その為め家の為め老す事
 三、真心を以て物事を判断する事

- 一、皇國精神を深める事
自分の生まれ育った国の歴史や文化を学び、大事にしよう!
- 一、世の為め家の為め尽す事
自分のことだけでなく、社会のこと、家族のことを考えて行動しよう!
- 一、真心をもって物事を判断する事
迷いや疑い、先入観を持たず、真つすぐな気持ちで物事を判断しよう!

「五箇の実践」

五箇の実践
 一、朝早く起きて神仏を拜む事
 二、物を大切にしよう! 食物は頂いて食べる事
 三、勤労を喜ぶ人の嫌ふ仕事は先に立って行ふ事
 四、礼節と規律を守ること守る事
 五、自分の事は自分で守る事

- 一、朝早く起きて神仏を拜む事
朝早く起きて、今の生活に感謝しよう!
- 一、物を大切にしよう! 食物は頂いて食べる事
物を大切にしよう! 食事は、材料を作った人や料理を作ってくれた人など、様々な人の手を経たもの、食べられることに感謝していただくよう!
- 一、勤労を喜び、人の嫌う仕事は先に立って行う事
どんな仕事も喜んでしよう、人の嫌う仕事も率先してしよう!
- 一、礼節と規律を守ること守る事
礼儀や社会のルールを守ろう!
- 一、自分の事は自分で守る事
自分の身の回りのことは自分でしよう!

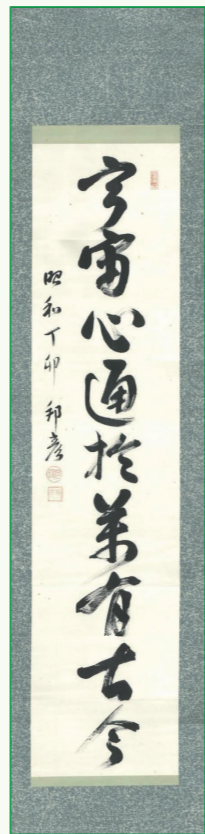
生活の中で実践してみよう!



大倉邦彦が残した言葉

大倉邦彦の思想

「宇宙心通於万有古今」



読み「宇宙心、万有古今に通ず」

大倉邦彦のこの言葉は、「宇宙心の働きは、遠い昔から途切れることなく永遠に続いていく」という意味です。

邦彦は、宇宙の全ての存在を生かし、成り立たせているものを「宇宙心」と呼んでいました。「神」「法則」「エネルギー」などと言い換えることもできるかもしれません。

邦彦は、宇宙の一部である私たち人間も、この「宇宙心」を必ず持つており、それを自覚し、欲を出さず、謙虚に、今自分のやるべきことへ真剣に向き合えば、「宇宙心」＝自分が本来持っている無限の力を発揮することができると思っています。

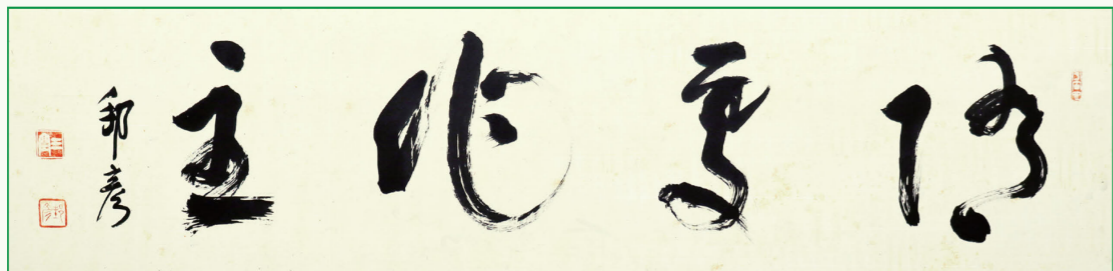
「随处作主」

読み「随处に主と作る」

臨済宗の開祖、臨済義玄の語録『臨済録』という本の中にある言葉で、自分がどのような環境にあつても、自らが主人公となるという意味です。

人間は、まわりの環境に流され、日々を何となくと過ごしてしまいがちです。これでは本心に「生きている」とはいえないでしょう。「今、この瞬間」を意識して、何物にも左右されない自分を確立し、自らがこの世界の主人公となる、そうすれば、今自分のいる場所が、真実の場所になると臨済は説きます。

大倉邦彦は「現実刻々の生活が、そのまま信仰の道場」「常思猛進」であると言っています。平凡な日常生活の中でも流されることなく平常心を保ち、自らが主人公となって一生懸命行動することで本当の自分の姿が見えてきます。これが「生きている」ということなのです。



【大倉邦彦に関するおもな論文】

- 『大倉山論集』50—特集 大倉邦彦研究—、2004年
- 『大倉山論集』52—特集 大倉邦彦の図書館事業—、2006年
- 平井誠二「農村工芸学院と大倉邦彦」『大倉山論集』45、2000年
- 勝岡寛次「大倉邦彦の逮捕から釈放まで—極東国際軍事裁判・国際検察局 (IPS) 尋問調書の分析から—」『大倉山論集』46、2000年
- 田代武博「大倉邦彦における「行の教育」—思想的枠組みと佐賀県における実践—」『大倉山論集』46、2000年
- 伊香賀隆「大倉邦彦の「宇宙心」考—その揮毫から浮かび上がる思想—」『大倉山論集』58、2012年
- 林宏美「大倉邦彦と富士見幼稚園二〇年のあゆみ—戦前・戦中の私立幼稚園の資料から—」『大倉山論集』62、2016年
- 星原大輔「世の為に田を耕す—大倉家三代の生き方—第三十八回研究所資料展の報告を兼ねて—」『大倉山論集』65、2019年
- 上久保敏「大倉邦彦と「日本文化講義」: 在野の教学刷新実践者とその思想善導講義」『大倉山論集』67、2021年
- 平井誠二「近代の肖像 171~173 大倉邦彦」『中外日報』2007年
- 西岡和彦「奉公無我の精神—忘れられた哲人、大倉邦彦小伝—」『大法輪』78-12~79-2、2011~2012年
- 星原大輔「大倉精神文化研究所と日本精神文化曼荼羅に込められた大倉邦彦の理念」『同文書院記念報』28、2020年

【大倉邦彦を扱った映像・音声作品】

※QRコードを読み込むとYouTubeで動画が見られます

「大倉邦彦と巡る 大倉山記念館」2016年



「味の生活 和の力」2014年



「未来に羽ばたく大倉精神文化研究所」

2012年



前田晴美「大倉山の大倉邦彦さんの話」

2017年



参考文献リスト 大倉邦彦をより深く知るために

【大倉邦彦のおもな著作】

- 『感想(其一)~(其十三)』1925~37年
- 『MY THOUGHTS(英文)』ウェストミンスター社、1935年
- 『心のつどひ』『心の使』『私の使命事業』『使命事業』1928~1941年
- 『放送 処世信念』千倉書房、1937年
- 『勤労教育の理論と方法』三省堂、1938年
- 『日本産業道』日本評論社、1939年
- 『随想 飛び石』青年書房、1940年
- 『神祇教育と訓練』神祇院教務局指導課、1942年
- 『大倉邦彦選集』潮文閣、1942年
- 『大東亜建設と教養』弘道館、1942年
- 『産霊の産業』大日本産業報国会、1942年
- 『勤労世界観』明世堂、1944年
- 『大倉邦彦「院主書簡」—翻刻と解題—』『大倉山論集』46、2000年
- 『大倉邦彦の「感想」—魂を刻んだ随想録—(一部英文対訳)』大倉精神文化研究所、2003年
- 『大倉邦彦の社会貢献とその理念: 新出資料の翻刻紹介』『大倉山論集』65、2019年



大倉邦彦の著作

【大倉邦彦に言及したおもな書籍】

- 『大倉邦彦先生献呈論文集 国史論纂』大倉邦彦先生献呈論文集編纂委員会、躬行会、1942年
- 『東亜同文書院大学史』滬友会、1955年
- 『神埼町史』神埼町役場、1972年
- 『特種製紙五十年史』特種製紙株式会社、1976年
- 『日本の建築 [明治・大正・昭和] 3 国家のデザイン』三省堂、1979年
- 『東亜同文書院大学史—創立八十周年記念誌』滬友会、1982年
- 『東京路上博物誌』藤森照信・荒俣宏・鹿島出版会、1987年
- 『大倉紙パルプ商事株式会社百年史』大倉紙パルプ商事、1989年
- 『大倉邦彦伝』大倉精神文化研究所、1992年
- 『奇っ怪紳士録』荒俣宏、平凡社、1993年
- 『製陶王国をきずいた父と子』砂川幸雄、晶文社、2000年
- 『講演集 大倉邦彦と精神文化研究所』大倉精神文化研究所、2002年
- 『一隅会の名付け親・大倉邦彦の経営哲学』平井誠二、一隅会、2010年
- 『神埼の偉人35』神埼郷土研究会、2015年



附属図書館の書庫

大倉精神文化研究所附属図書館

大倉邦彦は、本を読むことで、心が豊かな人になって欲しいと願い、図書館を作りました。哲学・宗教・歴史・文学を中心に約11万冊の本を所蔵しており、江戸時代の古文書や数百年も前の外国の本など、他の図書館にはないような資料もたくさん所蔵しています。むずかしい専門書だけでなく、読みやすい入門書もあり、誰でも無料で利用できます。緑豊かな丘の上の図書館へぜひ来てください。



利用案内

開館日
火曜日～土曜日 午前9時30分～午後4時30分

休館日
日曜日・月曜日・祝日・年末年始・ホームページ等でお知らせします。

貸し出し
10冊2週間まで。利用登録が必要です。登録の際は住所を確認できる書類をお持ちください。

コピー
B5～A3 白黒 1枚 20円 / カラー 1枚 80円

レファレンス・本の予約
カウンター・電話・E-mail等で受け付けています。

第2閲覧室
資料を読んだり、自習で使うことができます。利用する時は、図書館カウンターで手続きをして下さい。

問い合わせ
電話 045-834-6636 (図書館直通)

E-mail okuraken-toshokan@abox3.so-net.ne.jp
ホームページ <http://www.okuraken.or.jp/tosyokan/>
蔵書検索ページ <https://okuraken-lib.opac.jp/opac/top>
図書館で所蔵している本をインターネットで検索できます。



本だけでなくこんな資料も・・・
図書館ホームページ
蔵書検索

公益財団法人大倉精神文化研究所

大倉邦彦は、心が豊かであることが、生活や社会をよいものにすると考え、その方法を研究し、実践するために大倉精神文化研究所をつくりました。研究所では、創立者大倉邦彦の想いを受け継ぎ、今も次のような活動を続けています。

<https://www.okuraken.or.jp>



1

精神文化の研究

精神文化=心を豊かにする文化について研究しています。

2

大倉邦彦・研究所の研究

創立者大倉邦彦の生涯や思想、研究所の歴史などについて研究しています。

3

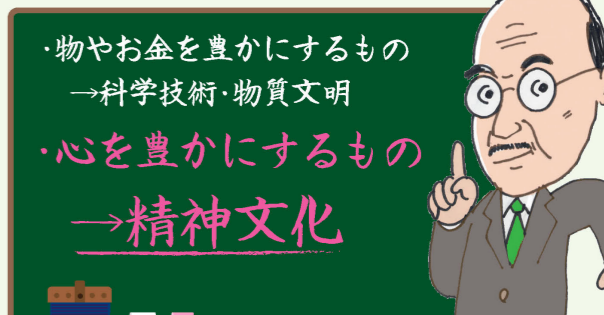
地域の歴史・文化の研究

研究所が位置する神奈川県横浜市港北区周辺の歴史や文化を研究しています。

4

研究成果を伝える

研究した成果が社会の役に立つよう、講演会や展示会を開いたり、本を作ったりして、その内容を伝えています。

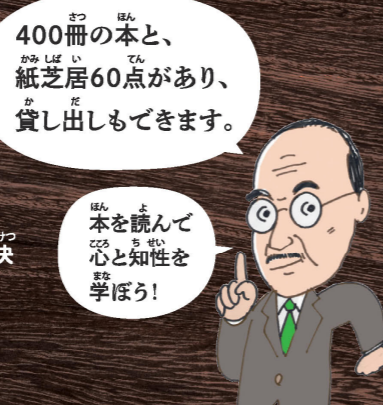


こんな活動をしているよ!



「やさしく読める心の本コーナー」ができました!

400冊の本と、紙芝居60点があり、貸し出しもできます。
コーナーには、「心」のことをわかりやすく書いた本や地域の昔ばなし紙芝居を集めています。そこには、日々の生活で浮かんだ疑問、さまざまな悩みを解決するヒントが、きっとあるはず。家族やお友達と一緒にぜひ利用してください。



大倉山の駅名・地名の由来

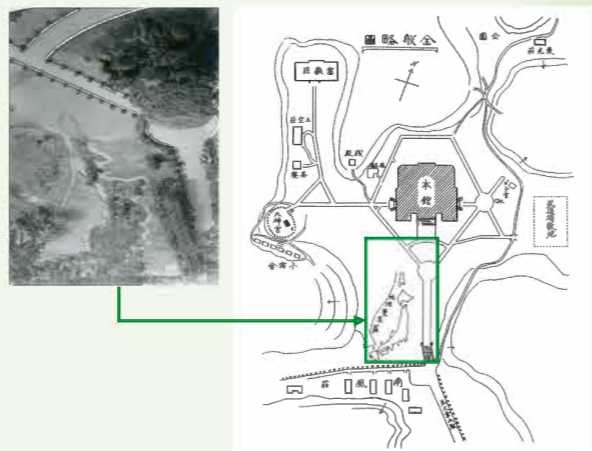
大倉精神文化研究所は急な坂を上った丘の上にあります。この丘は昔「観音山」と呼ばれていましたが、研究所の建設が始まった1929年頃から、「大倉さんが研究所をつくっている山」ということで、「大倉山」と呼ばれるようになります。また、このあたりはもともと太尾という地名で、研究所の最寄り駅の大倉山も東横線が開業した時の駅名は太尾でしたが、研究所完成直前の1932年3月31日に、駅名を大倉山に変えました。その後、2007年から2009年までに「太尾町」という住所も「大倉山」になります。
「大倉山」という駅名や地名は、大倉邦彦が大倉精神文化研究所をつくったことが始まりだったのです。



1930年10月の沿線案内。今の太尾駅はまだ太尾駅で、完成前だった研究所が、すでに記載されています。

【大倉邦彦が建物に込めた思想】

かつて、大倉山記念館の前庭の一角には、日本列島の形に芝をはり松の木を植え、周りに砂利を敷き詰めた庭園があり、「地理曼荼羅」と呼ばれていました。
現在、大きく育った松の木にその名残りを見て取れます。
大倉邦彦は、建物を人間に見立て、地理曼荼羅で日本を、大倉山全体で地球を表し、全てが一体であると語っています。邦彦は、人を育てることにより日本を良くし、大倉山の地から世界を良くしたいと考えたのです。



【建物の特徴】

長野宇平治が採用・命名したプレ・ヘレニック様式の特徴は、①裾ぼりの柱、②円盤列、③三角型空間、④ロゼット、⑤山形と螺旋文様の構成装飾等に見られます。建物だけでなく、初期に制作された机やイスなどの什器類も、プレ・ヘレニックの統一デザインで設計されています。東洋の意匠は、⑥正面破風の八稜鏡と鳳凰の彫刻、⑦ホール内四隅の柱上部に付けられた斗拱などに見られます。



【インフォメーション】

横浜市民の皆様の公共施設として、集会室、ホール、ギャラリーの貸出を行っています。貸出・利用方法は、大倉山記念館へお問い合わせください。



〒222-0037横浜市港北区大倉山二丁目10番1号
TEL 045-544-1881

<https://o-kurayama.com>

大倉山記念館のホームページがご覧になれます→



横浜市大倉山記念館

旧大倉精神文化研究所本館



大倉精神文化研究所の建物は、1981(昭和56)年に研究所から横浜市へ寄贈されました。邦彦の死後、研究所の財政難により、当時の建物は「化け物屋敷」と言われるほど、中も外も荒れ果てていましたが、横浜市によって建物の改修が行われます。そして、1984(昭和59)年に、横浜市大倉山記念館と名前を変え、市民利用施設となりました。
館内の集会室やホールは音楽会や会議、趣味のサークルに、ギャラリーは絵画や写真の展示等、市民のみなさんの心を豊かにする文化活動に利用されています。

また、ギリシャ神殿風といわれる外観や、昭和の初めの雰囲気を残す第5集会室、寺社建築の様式を取り入れたホール、黄金色のステンドグラスからの光が差し込むエントランスホールなど、特徴的な見た目や内装を持つ建物は、映画やテレビのロケ地としても数多く撮影がされています。

1991(平成3)年には、横浜市指定有形文化財に指定されました。
大倉精神文化研究所は、大倉山記念館の建物の東側を使用して、現在も公益財団法人として活動を続けています。

大倉精神文化研究所本館建設関係資料

大倉精神文化研究所には、設計図面や契約書、注文書、請求書、納品書、工事に関してやりとりをした手紙、建設中の写真や映像など、建設に関わる多くの資料を所蔵しています。
戦前に建てられた建築物は、建物そのものが残っていても、建設に関わる資料は失われている場合が多く、建物と資料の両方が残り、その経過を詳細に知ることが出来るのは、非常に貴重です。

2004(平成16)年には、これらの資料も大倉精神文化研究所建設関係資料(4,546点)として、横浜市指定有形文化財(歴史資料)に指定されています。



建設中の大倉精神文化研究所本館
(現在の横浜市大倉山記念館)